

キャベツ（平坦地秋まき）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型												
主な作業	追肥開始	収 穫							は	本圃準備	定 植	

技 術 体 系

1 作型の特徴

幼苗期が低温期となるために花芽分化しやすく、収穫期は温度が高くなるため抽だいしやすくなるため、品種選定及び播種期に注意を払うことが重要である。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

（1）温度

平坦地夏まきに準ずる。

（2）土壌条件

平坦地夏まきに準ずる。

4 施設装備

（1）育苗ビニールハウス

（2）キャベツ移植機

（3）管理機

（4）動力噴霧機

（5）大区画圃場栽培であれば望ましいもの

①セル専用土入れ機＋セル成形播種機

②シャトルスプレイカー

③乗用型全自動移植機

④ブームスプレヤー

5 経営目標

（1）収 量 4 t / 10a

（2）投下労働時間

①慣行作業体系：110時間 / 10a

②大型機械化体系：85時間 / 10a

（3）所 得 率 50 %

（4）経営規模(家族労働力2人の場合)

①慣行作業体系：300a

②大型機械化体系：400a

栽 培 技 術

1 品種と特徴

「金系201」

秋播き極早生種で、草勢強く草型はやや開帳性である。玉のしまりがよく食味が優れている。抽だい防止のため越冬時の葉齢は、14枚以下が安全である。

2 育苗

（1）播種

10a当たり必要資材は夏まきに準ずる。

①128穴セルトレイに育苗用土を均一に入れる。

②十分に灌水する。

③用土に水がなじんだら、型付ローラで播種穴をあける。

④ポットル等を使い、1穴に1粒播種する。

- ⑤バーミキュライト等で覆土する。
- ⑥軽く灌水し、不織布等を掛けて発芽させる
- ⑦高温時は納屋など風通しの良い日陰で、トレイを積み重ねる。
- ⑧試しに2～3穴の覆土を取り除き、芽が切れていれば育苗ハウスへ移す。
- ⑨ハウス内では、育苗棚やブロック等の上にパイプやたる木等を置き、その上で育苗する。
- ⑩灌水は、子葉が展開するまでは基本的には行わず、その後は用土の表面が乾かないように行う。
- ⑪播種後15日目頃から液肥による追肥を行う。

3 本圃準備

- ①定植20日前までに、炭酸苦土石灰を全面散布後よく混和し、pH調整(pH6.0～6.8)を行う。
- ②水はけの悪いほ場では、エアーインジェクターによる弾丸暗きょや溝掘り機による明きょを施す。
- ③完熟堆肥を10a当たり2t以上施し地力の増進を図る。
- ④基肥を施す。

施肥量 (K g / 10 a)			
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基肥	12	20	10
追肥	12	—	10
全量	24	20	20

4 定植

(1) 定植適期

本葉：3～4枚

草丈：10～12cm

(2) 栽植様式

畦幅1.2m、株間45cmの2条植えで、3,700株/10aを標準とする。

5 定植後の管理

(1) 追肥

追肥は3回分肥する。

- ①1回目：活着後、株元から15cmくらいのと

ころに施し、軽く培土する。

- ②2回目：定植後20日目に畦肩に施し、培土を行う。

- ③3回目：結球開始期に施す。

また、低温期の生育となりホウ素欠乏症が出やすいので、ホウ素入り化成またはホウ砂(10a当たり1kg程度)を施用する。

(2) 防除

結球期に菌核病が、天候が悪い時や多湿圃場で発生しやすい。

害虫は、春からアブラムシ、アオムシ及びコナガ等の発生が多くなるので早期防除に心がける。

6 収穫

春からの気温上昇に伴い結球が進むので、裂球の発生に注意を払いやや若穫りとする。